

「伝えあう力」を高めるための IT 機器の効果的な活用

—低学年から始める機器の活用—

長野県生坂村立生坂小学校 教諭 中村聡士

学校代表アドレス sairyu@avis.ne.jp 生坂小学校ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~sairyu>

キーワード：小学校低学年，国語科，生活科，デジタルカメラ，ＩＣレコーダー

１．はじめに

本校では、学校運営の重点の一つに「思いを伝える力、他者と関わりあう力を高める」を挙げ、実践に取り組んできた。１年生ではそのための手段として、デジタルカメラ、ＩＣレコーダーを使い、子ども達が自らの学習活動を記録し、その記録を見返して自己評価・相互評価を行うことで、自己表現力やお互いのコミュニケーション能力を高めることにつなげたいと願い実践に取り組んできた。



写真１ 動画撮影の様子

２．デジタルカメラを活用した授業実践

（１）きれいな朝顔を残そう

１年生では、生活科の学習で一人一鉢ずつ朝顔の栽培に取り組み、７月には大輪の花が咲いた。ところが昼にはしおれてしまう花を見て、きれいな花を撮っておきたいという声が子どもから出てきた。そこで、デジタルカメラで咲いた花を撮影することになった。カメラの使い方は、前に使った人が次の人に教える方法で行った。カメラの使い方を教えあいながら撮影を楽しむ子供たちの姿が見られた。



写真２ 動画の見返し

（２）１年生国語科「はっきりはなそう」の実践

みんなに知らせたいことを選び、話の順序を考えながら、友達に分かるように話すことを目標に、夏休みの出来事の中から紹介したいことを一つきめて、話す内容を考えた。そしてグループごとに話す練習を行い、その様子をデジタルカメラで動画撮影し（写真１）、見返し（写真２）をして、話し方を自己評価・相互評価した。動画撮影を取り入れた練習を３回行った後、発表会を行った。最後に練習のときの様子と、発表会のときの様子を動画で振り返り、自己評価をした。動画撮影を取り入れることで、グループ内で友達の話し方を真剣に聞くことができるようになってきた。また、自分の動画を振り返り、よりよい話し方ができるようにすすんで練習する姿が見られた。

（３）写真で伝えよう

１年生では朝の会で当番の児童が順番にスピーチをする活動を続けてきた。１２月からは、当番児童がデジタルカメラで写真を撮影し、それを見せながらスピーチをするようにした。回数を重ねることで、話したい対象をアップで撮影するようになったり、写真を見せながら詳しく話ができるようになったりしてきた。

３．ＩＣレコーダーを活用した授業実践（１年生国語科「声にだして読もう」）

「くじらぐも」という物語の音読練習で、毎回練習の最後にＩＣレコーダーで録音をした。録音した音声を聞き直し、間のあけ方や「」の中の言葉の読み方をさらに工夫して、音読に取り組むことができた。また、友達の音読を聞きアドバイスカードを書いて送りあい、自分の音読に生かす活動も行うことができた。

４．全校への機器利用の波及効果

１年生での実践をうけ、他学年でもデジタルカメラの動画撮影機能を活用した授業実践が行われた。２年生国語「ともだちにわかるように話そう」では、発表の練習を動画で撮影し見返す活動を行った。４年生体育「マット運動」では、友達の回っている様子をお互いに撮影し見返すことで技のできばえを確認し、アドバイスする学習を行った。また、学習発表会では、全学年が電子情報ボードに資料を提示し、スライドを切り替えたり、書き込みをしたりしながら学習してきたことを発表した（パイオニアより１ヶ月間借用）。より分かりやすく伝えようと、スライドのデザイン、ボードに書き込むタイミングなどを考えながら準備をすすめる子供たちの姿があった。

５．成果と課題

- ・ 少しずつ手順を増やしながら指導していくことで１年生でも機器を丁寧に確実に扱えるようになった。
- ・ 録音・録画という活動を取り入れることで友達の話を集中して静かに聞けるようになってきた。
- ・ 機器を使い、自分を振り返ることで、次の目標がより明確化し、真剣に練習に取り組む姿が見られた。
- ・ 見返しの視点をできるだけ具体的にしておかないと、低学年では振り返りがあいまいなものになってしまう。